



日野市



KDDI株式会社

社会課題解決型モデル事業の 共創に関する連携協定締結式

令和元年（2019年）8月1日

TRANSFORMING OUR WORLD
SDGs IN ACTION HINO 
日野市はSDGs未来都市に選定されました。

私たちがめざすもの

「できますよ」と言いやすくなる 地域を実現します。

世界に先駆け、急速な少子高齢化が進む日本。
人口増加が続く日野市でも**高齢化は進んでおり、近い将来の人口減少は避けられません。**

しかし、それは暗い話ばかりなのではないでしょうか？
その先には、**多様性に富む地域が実現している未来もあるのではないのでしょうか？**

* *

「高齢者は…。」「子育て世代は…。」「若者だから…。」
これまで私たちは「誰か」を「層」として捉えてサービスを一方的的に提供してきました。

しかし、今以上に個人のニーズが多様化する次世代社会では、
多様な声にさまざまな人がアクセスしやすくなる地域を実現する必要があります。

思っているけれど、誰かには言いづらい「こんなことやりたいんだけど…。」という声
そして、それを後押しする「できますよ。」というやり取り。

そんな会話が生まれやすくなる地域をめざして、
「個人」を中心とした新たなつながりを生むしくみづくりに取り組んでいきます。



【連携内容】

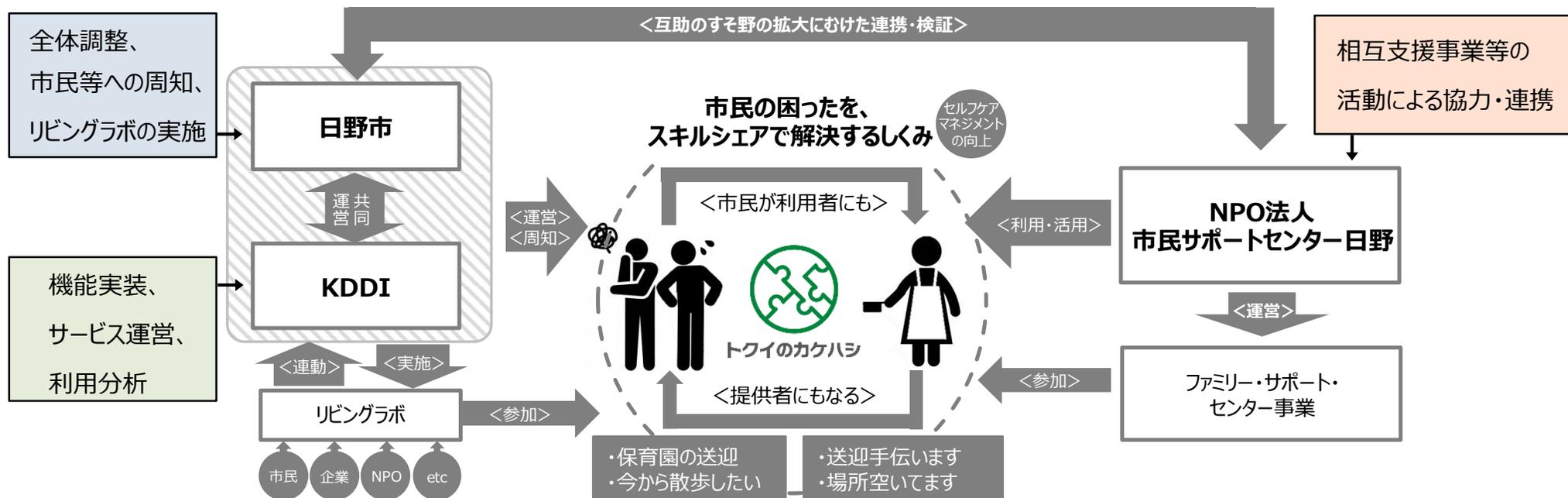
連携項目 1 シェアリングエコノミーの推進に関すること

地域課題解決のために、シェアリングエコノミーを推進していく中で、KDDIのスキルシェアサービス「トクイのカケハシ」を活用しながら、スキルシェアサービスの実証実験を行います。

連携項目 2 地域活性化に関すること

実験や事業実施にあたっては、地域の現状や課題を踏まえながら事業を行うとともに、リビングラボなどを活用しながら地域の中でさまざまな「コト起こし」を支援します。

【連携事業（実証事業）】 → 2019年8月1日から2019年12月（予定）まで





KDDI株式会社「トクイノカケハシ」

付加機能

基本機能

対話型チャットボット



トクイのカケハシ

①プロフィール情報

②提供内容提案

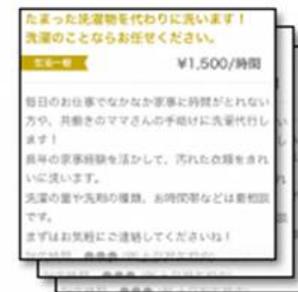


スキル提供・検索機能
評価・レビュー機能
資格・所属登録確認機能
匿名連絡・つながり機能

サンプルカード内容と
提供者プロフィールの
相関ロジックを実装

サンプルカード

需要の高い提供内容を
サンプルカード化



提供者

提供内容をカード化し公開。
自由な時間に経験を生かし地域貢献!

自由に作成

提案から作成



ちょっとした
収入にも



③登録・公開

④検索・依頼

⑤詳細調整

⑥できることを提供

⑦支払い・評価

依頼者

複数キーワードでかんたん検索。
資格・所属・つながり確認で安心依頼!

生活の悩みを
解決したい

ワクワクする
経験がしたい



提供プラットフォームについて(企画背景)



社会構造の変化

平均寿命の伸長 (人生100年時代)

平均寿命：男性83.27歳、女性89.63歳
認知症患者：953万人（2040年）

労働人口の減少

CY2015 7600万人→ CY2040 6000万人

IoT・AIによる就業構造変化

定型業務▲386万人
価値創造業務 +190万人（2030年）

独居高齢者の増加

独居高齢世帯 約760万世帯（2035年）

共働き世帯の増加

CY2010→ CY2015 ↑112%

環境想定

時間的余裕の発生

リタイア・再雇用

働き方改革

副業/フリーランス人口増

リカレント/セカンドキャリア

施策拡大/需要増
チャレンジ層の増加

地域互助/地域発信

地域の支え合い需要増
地域発信の活動増

企画内容

年齢にかかわらず活躍できるスキルシェアPF

幅広い年齢の方々

つながる

地域企業や住民の方々

時間にしばられず、
経験を生かし・地域に貢献し、
収入を得られる活動。



- 仕事・子育てリタイア後の活動
余暇時間の活用・地域との繋がり
- 再・延長雇用時の副業活動
再雇用期間長期化・年収の大幅減
- 家計負担の増大
年金支給年齢引上げ・医療負担の拡大

お願いしたいことの
知識やスキルを持った人が、
もっと簡単に見つければ。

- 共働き世帯の増加
家事・子育て関連のサポートニーズ
- 単身高齢者世帯の増加
身体的課題による生活サポートニーズ
- 高齢者のICT活用格差拡大
ICT教育支援ニーズ
- 中小企業の人材不足
経験者人材のスキル活用ニーズ
- 体験型観光の増加(流入)
ワクワク・学び体験ニーズ

シンプルUI



音声の活用



活動の提案





市民対話型ワークショップ 「リビングラボ」との連携

地域には「できること」や「使える場所」があるのに、それらが本当に欲しい人と出会えていない。

➡ 「シェアリングエコノミー」の事業提案に



地域に根差すNPOとの連携

ユーザーが感じる大きな課題「安心感」。
日本では受け入れられにくいシェアリングが
「地域に根差して安心して使い続けられるサービス
になるためには？」を協働で検証。



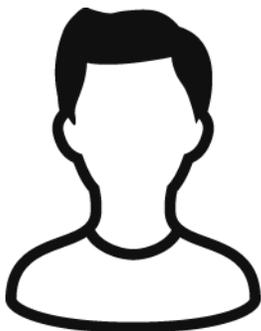
【相互援助活動会員】

登録が難しいと思っていたが、意外と簡単だった。改めて自分の活動を伝えようとしたが自己PRを考えるのが難しい。



【相互援助活動会員】

今までの方が慣れているし、安心感はある。やり方や使い方のイメージがわかれば違ってくるかもしれない。



【リビングラボ参加者】

色々なきっかけと結びついていくとよい。子どもと一緒にイベントの募集など、身近で気軽な使い方ができれば。



「互助」をテーマに、シェアリングエコノミーの「使い方」を検証します。

テーマ	①相互援助事業などとの連携	②市民ニーズに基づく利用の検証
概要	地域の互助事業との連携性を検証 安心感 = クローズドなエリアを設定	市民・企業・団体が実際に プラットフォームを使う中でのニーズを検証
イメージ		
参加者	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人の利用者 ・リビングラボ参加者 	①の参加者を含む市民
時期 (想定)	2019年6月～12月末 (予定)	2019年8月1日～12月末 (予定)
場所	主に豊田駅周辺	市全域に拡大 ⁹



シェアリングエコノミーとは

個人等が保有する活用可能な遊休資産等

→ 資産（空間、モノ等）

→ 能力（スキル、知識等）

を他の個人等も利用可能とする経済活動

